

## フィラリアについて

### ■フィラリアの検査

血液検査は、雌のフィラリアの分泌物の量を測定しています。虫が弱って分泌物の量が少ないと、数がいっても陰性になってしまいます。性成熟した雌の元気なフィラリア 3 匹以上で 100%陽性になります。雄は測定対象外です。

当院で行っているPRAテストでは、雌雄関係なく、元気だろうが弱っていようが、成虫の生きているフィラリアがいるかどうかを検査することが可能です。血液検査で陰性といわれたら、フィラリアがいないのではなく、予防薬を服用できるくらいの寄生だと考えてください。

### ■フィラリアの予防

予防薬は本来フィラリアがいない犬が服用する薬なのですが、少数の虫なら服薬しても問題ない場合がほとんどです。フィラリア予防薬とっていますが、実際は体内に入った感染仔虫を殺す薬です。蚊を見なくなってから、1~2 か月あとまで服薬するのが基本です。冬になっても、家の中は暖かいですし、フィラリアを媒介する蚊は人間よりも、犬を刺しに行きます。冬でも暖かい日は、蚊が活動します。人間が蚊に刺されなくても、犬が蚊に刺されて、フィラリアに感染してしまうのはよくあることです。住んでいる地域によりますが、大阪の当院では 1 年 12 回の服薬をお願いしています。お住いの冬の寒さにもよりますが、かかりつけの先生の指導より、前後 2 ヶ月程長く服薬してください。先生にお願いすれば、お薬は処方していただけたと思います。この予防薬は、蚊に刺されて体内に入った感染仔虫を、殺す薬です。体内に入ってから薬で殺せるまでに 1 か月かかります（この間は血管内にいます）。その後、筋肉や組織の中に入り込んで成長します。この時期のみ、仔虫を殺すことができます。この期間は、1 か月から永くて 3 か月位です。この時期に、殺せなかったら、未成熟虫となって血液中に移動し、成虫になり、心臓に寄生します。予防薬は、月 1 回服薬しますが、1 か月間効果が持続するものではありません。せいぜい 2 日です。この間に殺せなかった感染仔虫は、次回の服薬時に殺すことになります。ですから、忘れて服薬日が過ぎたときは、すぐに薬を飲ませてください。次回の服薬は、今までと同じ日にちです。忘れて服薬した日から 1 か月後ではありません。フィラリアは、死んでも心臓や血管の中にいます。分解されていきますが、時間がかかります。10 歳くらいから、心臓が悪くなるのは、少数寄生のフィラリアが、原因の場合が多いです。

決められた期間にしっかりと服薬し大切なワンちゃんの身体と一緒に守っていきましょう。